

お取引先様各位

2025年8月

TES-AMM JAPAN 株式会社

リチウムイオンバッテリーの保管・管理方法について

拝啓 貴社ますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今、リチウムイオンバッテリー（以下：バッテリー）の取り扱いにおける危険性などメディア等で大きく取り上げられており、実際に大規模な火災が発生しているケースもございます。弊社は日常的にIT機器に付随するバッテリーの取り扱いを行っており、発火におけるリスク回避において細心の注意を払っております。その経験値をもとに、皆様が御社内で保管管理する際の留意点を以下にまとめさせていただきました。夏場は特に高温になるため一層の注意が必要になりますので、あらためて皆様の保管管理方法の再確認、少しでも危険防止につながれば幸いです。

敬具

記

バッテリー保管管理のための留意点：

- ① 適切な絶縁処理を行う
- ② 万が一発火した際に延焼を防ぐため、ペール缶等に保管
- ③ 高温・低湿度環境を避ける
- ④ 金属類と一緒に保管しない
- ⑤ 膨張や液漏れ等が発生している場合は早めに処分を行う

① 適切な絶縁処理を行う：

必ず多重絶縁処理をせず、バッテリー単体で電極部にテープ等で絶縁処理を行い、加えて静電気防止袋やラップ等で個別包装してから保管管理を行って下さい。（以下図参照）



② 万が一発火した際に延焼を防ぐため、ペール缶等に保管：

ペール缶や市販で販売されているバッテリー保管庫等に保管しておけば、万が一発火した場合でも延焼を防いでくれます。燃え広がらないよう対策をうっておくと安心です。また定期的に保管状態を異常がないか目視で確認して下さい。（以下図参照）



③ 高温・低湿度環境を避ける

夏場の高温時期に窓際や外部等で直射日光が当たる場所を避けて保管下さい。冬場でもストーブ等の熱源の周りを避けて保管下さい。また湿気も大敵で、内部腐食やショートの原因になります。湿度の低い、乾燥した場所に保管しましょう。防湿ケースや乾燥剤と一緒に保管するのも効果的です。

④ 金属類と一緒に保管しない

金属類（例えば硬貨や携帯電話等）と一緒に保管するとショートの原因につながるリスクが高くなりますので混合での保管はお控え下さい。

⑤ 膨張や液漏れ等が発生している場合は早めに処分を行う

バッテリー自体が膨張したものや液漏れが発生しているケースは大変危険な状態です。破裂や発火の可能性が通常よりも高まりますので、メーカーに相談して早期に廃棄処分を行って下さい。（以下図参照）



極めて一般的な内容ではございますが、弊社のお客様の中でもインシデントが発生しているケースもございます。管理者様には今一度、危険防止対策の再確認を推奨致します。

以上